

災害から身を守る防災対策！

災害はいつ、どこで発生するかわからないため、災害の発生を防ぐことはできません。しかし、事前に身を守る防災対策を行うことで、被害を最小限にすることはできます。まずは、家庭でできる防災対策について学んでみましょう！

家族で防災会議を開いてみましょう！

議題

- ①連絡がとれないときの具体的な集合場所
- ②災害時伝言ダイヤル等の活用方法
- ③避難所、避難経路の確認
- ④災害情報の集め方
- ⑤非常持出袋と家庭内備蓄の確認



①具体的な集合場所を決めよう！

大規模な災害が発生したとき、被害の状況によっては連絡が取れない可能性があるため、集合場所を決めておきましょう！

ポイント！

「〇〇小学校に集合」ではなく、「〇〇小学校の鉄棒の前」など、具体的な集合場所を決めておきましょう！

②災害伝言ダイヤル等の活用方法を事前に学ぼう！

災害用伝言ダイヤルは電話を使用して安否などの伝言を録音・再生できるサービスです。使用する災害時伝言ダイヤル等のサービスを決めて、その使い方を事前に学んでおきましょう！

ポイント！

NTTの災害用伝言ダイヤルの場合、171番に電話をかけた後は、音声ガイダンスに従って、電話の番号を押していけば難しいことはありません。

③事前に避難所、避難経路の確認をしておきましょう！

大規模な災害が発生し、緊急的に避難所等に避難をしなければならない状況に備え、自宅から近い避難所等(安全な場所)を確認しておきましょう！また、避難所までの経路に危険になりそうなもの(高いブロック塀、窓ガラスが落下する可能性がある建物、道幅が狭い等)を実際に通ってみて確認しましょう！

ポイント！

災害の状況によっては、想定していた避難経路が通行できない可能性があるため、複数の避難経路を確立しておきましょう。

避難とは災害から身を守ることです。避難所に行くことだけが避難ではありません。安全な場所であれば、親戚・知人宅等も避難先として検討してみましょう！

④災害情報の集め方を確認しておきましょう！

災害時は、あらゆる手段で最新の情報を集めることが重要です。市は防災行政無線、ホームページ、フェイスブック、広報車による巡回などで情報を発信していますが、次の手段でも情報を集めることができます。

●緊急速報メール(エリアメール)

市内にある携帯電話(ドコモ、au・ソフトバンクなどへの携帯電話)へ緊急速報(エリア)メールを一齐送信します。登録は基本的に不要です。

●防災メールまもるくん

県内の地震、台風、大雨などの注意報・警報情報をメールで受信できます。

また、震度5弱以上の地震が県内で発生した場合、簡単な操作で、事前に登録したメールアドレスに自分の安否を知らせるメールを一齐に送信できます。

●Yahoo!JAPAN防災アプリ

ヤフー株式会社との協定により、ヤフー防災アプリを通じて、緊急情報を配信します。

●防災行政無線の放送内容を電話とホームページで確認できます。

電話による自動応答システム

下記の固定番号に電話をかけると、防災行政無線の放送内容を聞くことができます。

☎050-5212-5256

情報配信ホームページ

下記のURLにアクセスすると、防災行政無線の放送内容を文字で確認することができます。

<http://ogori.city.site.ktaiwork.jp>

※24時間以内に配信した最新の情報のみ確認できます。

⑤非常持出袋と家庭内備蓄を確認しておきましょう！

非常持出袋

非常持出品とは、避難する際に持ち出す最小限のものです。避難の際に負担にならないよう、必要な物を選び、コンパクトにまとめましょう。なお、両手が使えるリュックサック等にまとめ、玄関などの目のつきやすく、持ち出しやすい場所に置いておきましょう。

準備する物の例

貴重品 ▶ 現金、預金通帳、印鑑

水・非常食 ▶ すぐに食べられる物等

生活用品 ▶ 缶切り、ティッシュ等、懐中電灯

救急医療品 ▶ 絆創膏、常備薬

衣類等 ▶ 下着、衣類、タオル

家庭内備蓄

地震発生後の数日間は水・食料に加え、電気・ガスなどの供給が途絶える可能性があります。救助が受けられるまでの、数日間は各家庭で家族構成に応じたさまざまな生活必需品を備えておく必要があります。3日間分を目安に1週間分を目標に準備しましょう。

準備する物の例

食料 ▶ 保存が長いもの(缶詰等)

水 ▶ 1人1日あたり3リットル目安

生活用品 ▶ 毛布、衣類、ランタン、乾電池等

家族構成に合わせた備蓄品

乳幼児用: 粉ミルク、哺乳瓶、おむつ等